

【分野名：学際，複合，新領域】

大 学 名	日 本 大 学
拠点のプログラム名称	環境適応生物を活用する環境修復技術の開発
中核となる専攻等名	生物資源科学研究科生物環境科学専攻
拠点リーダー氏名	佐々木 恵彦

《拠点形成の概要》

本拠点計画は、国外の研究機関との緊密な連携と共同研究により、「現地」の劣化した自然環境、特に当初は酸性硫酸塩土壌地帯に適応して生育する生物（植物、微生物など）を探索するフィールド研究を行う。そこで選抜された生物は、国内での室内実験研究によって環境適応機能の基礎科学的な解析を行う。これによって、環境適応機能を明らかにするとともに、そこで明らかとなった適応生物の特性を利用して現地での修復実験を開始するなどの現地適応フィールド研究へと展開させる。こうした自然科学的な環境修復研究と同時並行して、環境破壊の社会的背景の調査研究や、修復のための住民・行政に対する合意形成など、環境修復に関する社会科学的評価研究を展開させ、広角的な立場での環境修復研究教育を進める。本プログラムは、生物環境科学専攻（生物環境科学研究センター）を基幹とし、生物資源科学研究科の各専攻（生物資源生産科学専攻、生物資源利用科学専攻、応用生命科学専攻、生物資源経済学専攻）を横断的に連携した研究教育体制を組むとともに、学内公募によって若手研究者を参加させる一方、本COEプロジェクトを通して大学院の充実や学生の経済的負担の軽減、他大学の大学院学生研修の受入等を積極的に実施する。さらに、国内外の大学院・研究機関との研究交流によって研究教育の一層の活性化を図る。



強酸性の酸性硫酸塩土壌に適応して生育する植物 *Shorea talura*
上：移植時、下：7年後の生育